

にほん いちばんふる わかしゅう まんようしゅう
日本の一番古い和歌集で、「万葉集」というものがあります。

まんようしゅう か した あか すうじ よ
万葉集に書かれている、下の赤い数字はなんと読むでしょうか？

といいち かりじ おの
問一、 獵路の小野に十六こそば

万葉集 卷三・二三九

いみ か ちい のはら
意味：狩りをするための小さい野原に「十六」がいて、

といに わかくさ にいたまくら
問二、 若草の 新手枕まきそめて

よる へだ
夜をや隔てむ 二八十一あらくくに

いみ わかくさ ういうい つま てまくら いくよ ね
意味：若草のように初々しい妻を手枕にして幾夜も寝た。 万葉集 卷一一・二五四二

つま よる す つま
その妻のいない夜は過ごせない。「二八十一」ない妻だから

といさん み あ
問三、 見れども飽かず三五月のいやめづらしみ

いみ なんかいみ あ うつ
意味：何回見ても飽きないくらいの「三五月」の美しさ 万葉集 卷二・一九六

キーワードは…

「かけ算^{ざん}」

といいち

問一

「**十六**」になる九九は…？動物の名前になります！

といに

問二

「**二八十一**」は「二」と「八十一」に分けて考えます！

といさん

問三

「**三五**」のを九九でいうと…

と^いい^ち 問一、 かり^じの^おの^の 小野に十六こそば

万葉集 卷三・二三九

い^みか^か ち^いの^はら^ら 意味：狩りをするための小さい野原に「十六」がいて、

しし
十六

<< 九九の「ししじゅうろく」（ $4 \times 4 = 16$ ）からきており、16と書^かいて「しし」と読^よんでいます。

この「しし」はライオンの「獅子^{しし}」ではなく、狩りをする動物^{か どうぶつ}という^いことで「猪^{いのしし}」や「鹿^{しか}」を指^さす言葉^{ことば}になります。

といに 問二、 わかくさの 新^に手^{いた}枕^{まくら}まきそめて

よる 夜^{よる}をや^{へだ}隔^たてお **二八十一**あらくに

いみ わかくさ ういうい つま てまくら いくよ ね
意味：若草のように初々しい妻を手枕にして幾夜も寝た。 万葉集 卷一一・二五四二

つま よる す つま
その妻のいない夜は過ごせない。「**二八十一**」ない妻だから

にくく
二八十一

「二」はそのまま「に」と読みます。

そして「八十一」は九九の「くくはちじゅういち (9×9=81)」か

ら「八十一」とかいて「くく」と読みます。なので、「憎くないのに」

いみ てん かわい しかた いみ
という意味で、転じて「可愛くて仕方ない」という意味になります。

といさん み あ
問三、 見れども飽かず三五月のいやめづらしみ

万葉集 卷二・一九六

いみ なんかいみ あ うつ
意味：何回見ても飽きないくらいの「三五月」の美しさ

もちづき
三五月

ざん かんが
かけ算の $3 \times 5 = 15$ から、「三五月」 → 「十五月」と考えると、
じゅうごや つき いみ
「十五夜の月」という意味になります。

じゅうごや つき まんげつ とうじ まんげつ もちづき よ
十五夜の月は「満月」ですね。当時、満月は「望月」と呼ばれていた
ため、「十五月」で「もちづき」と読みます。